

研究分担者 小林 正佳 三重大学 准教授

研究要旨

好酸球性副鼻腔炎における手術治療および抗体治療患者の QOL 評価と重症化予防に関する研究の分担研究の一環として、まず、好酸球性副鼻腔炎の診療ガイドラインの原稿の分担執筆を施行した。また、耳鼻咽喉科医師が参加する国内学会、国際学会や Web セミナーにおいて、好酸球性副鼻腔炎に対する内視鏡下鼻・副鼻腔手術の留意点を講演し、サージカルトレーニングの講習会においては手術手技の技術指導を施行した。さらに耳鼻咽喉科月間における市民公開講座で好酸球性副鼻腔炎についての講演を施行し、一般社会において好酸球性副鼻腔炎についての啓蒙を図った。

A. 研究目的

難治性疾患である好酸球性副鼻腔炎は、本研究班の JESREC スコア（臨床スコア）からなる診断基準および重症度分類の作成（Allergy 70:995-1003, 2015）、採血（末梢血中好酸球率）、副鼻腔単純 CT、内視鏡での鼻腔内観察によって、早期に診断できるようになった。しかし平成30年度から、保存的治療にて好酸球性副鼻腔炎の症状および QOL を改善できるか検討すると、マクロライド少量長期療法、鼻噴霧用ステロイド、抗ロイコトリエン薬の保存療法にて、膿性鼻汁の改善は認められるも鼻茸縮小・嗅覚障害・QOL 改善は認められないことが判明した。

一方で、手術方法および術後処置を検討し、順次導入した結果、合計660例の登録手術症例において、内視鏡下鼻副鼻腔手術1年後の再発率は10%以下であり、最初の JESRECS 研究で調べた2007年～2009年のデータ（再発率21%）よりも有意に改善していることが判明した。これは、手術手技の向上と術後処置の貢献（ケナコルト付きガーゼ挿入・頻回な鼻洗浄・鼻噴霧用ステロイド鼻呼出法など）によるものと考えられ、啓蒙の重要性が示唆された。そこでその啓蒙のために以下の各取り組みを施行した。

B. 研究方法

1. 好酸球性副鼻腔炎の診療ガイドラインの作成

本研究班で作成に取り組んでいる好酸球性副鼻腔炎の診療ガイドラインの原稿の分担執筆を施行した。

2. 耳鼻咽喉科医に対する好酸球性副鼻腔炎の診療の情報提供と教育

耳鼻咽喉科医師が参加する国内学会、国際学会や Web セミナーにおいて、好酸球性副鼻腔炎に対する内視鏡下鼻・副鼻腔手術の留意点を講演し、サージカルトレ

ーニングの講習会においては手術手技の技術指導を施行した。

3. 一般社会に対する好酸球性副鼻腔炎の診療の情報提供と啓蒙

市民公開講座で好酸球性副鼻腔炎についての講演を施行し、一般社会において好酸球性副鼻腔炎についての啓蒙を図った。

（倫理面への配慮）

以上の活動において、COI は適切に開示し、患者個人情報などの公表は一切施行せず、倫理面に対して十分に配慮をし、問題が生じないように図った。

C. 研究結果

1. 好酸球性副鼻腔炎の診療ガイドラインの作成

この原稿の分担執筆において、手術治療に関する内容を担当し、好酸球性副鼻腔炎の内視鏡下鼻・副鼻腔手術における留意点、特に主症状である嗅覚障害改善のための留意点と工夫について、詳記した。

2. 耳鼻咽喉科医に対する好酸球性副鼻腔炎の診療の情報提供と教育

1) 2021年9月23～25日に滋賀県大津市で開催された第60回日本鼻科学会学術講演会・第20回アジア鼻科学シンポジウムにおいて、好酸球性副鼻腔炎での嗅覚障害を改善させるための内視鏡下鼻・副鼻腔手術の留意点をシンポジウムで講演した。

2) 2021年8月20日に北陸高度アレルギー専門医療人育成プランが主催した「第10回アレルギー性副鼻腔炎についての鼻手術ウェブ講義」において講師を務め、

好酸球性副鼻腔炎での嗅覚障害を改善させるための内視鏡下鼻・副鼻腔手術の手技と工夫を詳細に紹介した。

3) 2021年12月11～12日に島根県出雲市で開催された第2回耳鼻咽喉科臨床解剖実習(経鼻内視鏡手術)、2022年2月11～12日に愛知県名古屋市で開催された第4回名古屋市立大学内視鏡下鼻内副鼻腔手術解剖実習というサージカルトレーニングの講習会において、それぞれ講師として好酸球性副鼻腔炎に対する手術手技の実習指導と講義を施行した。

3. 一般社会に対する好酸球性副鼻腔炎の診療の情報提供と啓蒙

2021年度から日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会(日耳鼻)が制定した3月の耳鼻咽喉科月間の関連行事として、日耳鼻三重県地方部会主催が2022年3月6日に開催した市民公開講座において、好酸球性副鼻腔炎についての講演の講師を務め、一般社会において好酸球性副鼻腔炎の診断、治療を紹介する講演を施行した。

D. 考察

好酸球性副鼻腔炎の治療成績は研究目的にも述べたように、手術と術後診療の工夫により向上させることが可能と考えられる。ただし、手術というのは医師個人の技能によるところが大きく、医師の経験次第で技量は異なり、その技術の程度の違いがこの疾患の治療成績を大きく左右させると考えられる。よって、まず診療を担当する耳鼻咽喉科医師に対する好酸球性副鼻腔炎の教育が重要で、これが充実すればそれがそのまま治療成績の向上に反映されることが期待できる。また、同時に一般社会における好酸球性副鼻腔炎への理解度の向上も必要で、好酸球性副鼻腔炎に対する適切な診療と手術療法の位置づけと重要性を患者に理解してもらうことで、本疾患の診療がよりスムーズに施行されることに期待ができる。と考える。

E. 結論

好酸球性副鼻腔炎の治療成績向上のためには、臨床を担当する耳鼻咽喉科医師の教育と一般社会において本疾患に対する理解を啓蒙することが重要であると考える。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

小林正佳：嗅覚障害. 今日の治療指針. 福井次矢, 高木誠, 小室一成:編, 医学書院, 東京;2021:1632-1633 頁.

Takabayashi T, Asaka D, Okamoto Y, Himi T, Haruna S, Yoshida N, Kondo K, Yoshikawa M, Sakuma Y, Shibata K, Suzuki M, Kobayashi M, Kawata R, Tsuzuki K, Okano M, Higaki T, Takeno S, Kodama S, Yonekura S, Saito H, Nozaki A, Otori N, Fujieda S. A phase II, multicenter, randomized, placebo-controlled study of benralizumab, a humanized anti-IL-5R alpha monoclonal antibody, in patients with eosinophilic chronic rhinosinusitis. Am J Rhinol Allergy 35: 861-870, 2021.

小林正佳：好酸球性副鼻腔炎の嗅覚障害の治療. アレルギーの臨床 41 (13) :1159-1162, 2021.

小林正佳：ESSのための手術解剖と画像診断. 日耳鼻 125 (3) :303-308, 2022.

2. 学会発表

2021年5月12日(水)～15日(土)
第122回日本耳鼻咽喉科学会学術講演会(in 京都・by 京大)
シンポジウム4

「内視鏡手術の進歩」

『鼻科領域での内視鏡手術の進歩』(13日)

○小林正佳

2021年8月20日(金)

アレルギー性副鼻腔炎についての鼻手術ウェブ講義
(Zoom開催、by 北陸高度アレルギー専門医療人育成
プラン、福井大)

『嗅覚のための手術のあれこれ』

○小林正佳

9月23日(木)～25日(土)

第60回日本鼻科学会・20th Asian Research
Symposium in Rhinology (ARSR) (in 大津・by 滋賀
医大)

Symposium 3

『Endoscopic sinus surgery for olfactory
dysfunction caused by eosinophilic chronic
rhinosinusitis』(25日)

○Kobayashi M, Takeuchi K

2021年11月20日(土)～21日(日)

日本耳鼻咽喉科学会秋季大会2020・第34回日本耳鼻咽喉科学会専門医講習会(in 横浜, by 関東ブロック)

専攻医講習3 鼻副鼻腔

『ESSのための手術解剖と画像診断』

○小林正佳

2021年12月10日(金)

日耳鼻島根県地方部会講演会(in 島根大+Zoom 配信)

『世界初の嗅覚障害診療ガイドラインを生かした医療』

○小林正佳

H. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし